

「聞こえない方・聞こえにくい方が緊急時でも安心して暮らせるための取組」について

### 1 取組の目的について

聞こえない方・聞こえにくい方が災害発生や救急対応等の緊急時でも地域で安心して暮らせるよう、地域住民、防災、救急、福祉等の関係者が、聴覚障がい当事者が災害時等にコミュニケーション面で的確な支援を得られるための方法（環境）や、聴覚障がい当事者との手話を含めたコミュニケーションについての理解を深めることを目的とする。

### 2 前回会議で示した案

近年自然災害が頻発している中、ろう者を含めた「災害等発生時の避難に配慮を要する方」が、避難時にコミュニケーション面で的確な支援を得られるようにするために、地域住民、防災関係者、福祉関係者が「ろう者やろう者とのコミュニケーション」について共通認識を持つ機会を設けることを目的に、講習会（意見交換会）を実施することで、「災害時におけるろう者への支援」「地域住民のろう者に対する理解」の促進を図る。

- 主な参加者～ろう者、手話通訳者、町内会長、民生児童委員、障害・介護サービス事業所、（行政）防災、高齢者、障がい者関係部署
- ろう者に対するの事業効果～ろう者自身の防災意識の向上
- 地域住民に対するの事業効果～ろう者に対する理解促進
- 行政関係者に対するの事業効果～防災への普及啓発、ろう者への支援促進、手話施策の推進

### 3 2に対する各委員からの意見について

- 災害よりも直近の問題である救急への対応が優先。救急関係者に現状を理解いただき意見交換会を行うとスムーズではないか。テーマに災害も含めると大変幅広くなる。災害をテーマに具体的にどのようなことを取り扱うのかのイメージがつかみづらい。
- 救急隊員は、「意思疎通のためマスクを外していただきたい」などといった要望に対し、理解がないと感じる。
- 手話条例が十分周知されておらず、特に医療や救急に関して、医療や救急の関係者に理解を深めてもらう内容が良い。
- 消防関係者に手話の講習を受けてもらうよう取り組む必要がある。
- ホテル・商店・交通機関等、様々な範囲に対し、文字情報による災害のお知らせなどの配慮について考えてもらえるようなきっかけとしてほしい。
- 災害への対応は、できるだけ早期に行うべき。事前に広報誌で災害対応について周知した上で講習会を行うなどの工夫が必要。
- 石狩市に先進事例があるので、情報収集を行う必要がある。

裏へ

#### 4 石狩市における事例

- ① 聴覚障がい者団体や手話サークルが石狩北部地区消防事務組合に働きかけ、団体やサークルの研修会で消防の啓発活動（講習会）を受講するなど、定期的に交流していた。

↓

- ② 石狩市における手話条例制定をきっかけとして、双方が現状の課題や協力体制のあり方を話し合った結果、聴覚障がい者団体の主催により「消防救急隊員手話研修会」を開催することとなった。

- ・消防救急隊員～救急に関する手話単語の学習，障がい当事者を患者役に見立てた演習
- ・障がい当事者～「消防救急隊員が簡単な手話で伝えてくれることで，安心感を得られる」

↓

- ③ 上記取組により双方の理解が深まった結果，毎年開催される「手話フェスタ」において，消防側の協力による「手話 de 救命講習」が実施されるなど，持続的な協力体制が構築された。

#### 5 取組の方向性について

- 救急隊員に対する要望活動は，一般的に市民団体等が旭川市に対して実施するものであり，本市主催で実施する手話施策推進会議の取組にはそぐわないことから，石狩市の先進事例にもあるように，関係団体等より要望や働きかけを行うことが有効となる。
- 救急については，防災に含めることとし，自然災害発生時や救急対応時等の非常事態に一般市民や事業所等が地域においてどのようにろう者への支援を行えば良いかを考える機会を設けることで，理解促進を図る。  
例) 当事者や関係者による講演等で理解を深めた上で意見交換を行う，シンポジウム形式でのイベントの開催など
- 聴覚障がい当事者と消防・救急・防災関係者の双方がお互いの現状を理解し合うことで，意見交換を円滑に進めることができる。